

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500352		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウス藤ヶ丘		
所在地	愛知県名古屋市長区宝が丘191 クウ1F		
自己評価作成日	平成23年11月14日	評価結果市町村受理日	24年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成23年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

時にはいざこざを起すことも、それもコミュニケーションのひとつとして利用者同士が仲良く助け合い、1人ひとりが自分らしく過ごしていただけるよう努めています。日々の散歩やおやつ作りなど、利用者職員が共に楽しみながら穏やかな日々を送っていただきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日近くの公園へ散歩に行ったときに近所の人と挨拶を交わし会話したり、また、近くの保育園の園児と散歩で出会うと、一緒に仲良く散歩をしている。法人の合同で行なう運動会では練習にも熱が入り、本番でも一生懸命応援したり、競技に参加して楽しんでいる。それらのことが利用者の身体機能低下の予防にも役立っている。ホーム内がバリアフリーになっていないことも、利用者と職員がお互いに気をつけあうことで、良いケアサービスにつながっている。家族からは要望や意見は何でも言ってもらえる関係が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『ゆっくり、一緒に、楽しく』をという理念を、事業所内に掲示したり、会議等で話し合うことで職員が共有し、理念に沿った支援ができるよう心掛けている	理念の「ゆっくり」は利用者のペースで、「一緒に」は職員と利用者と共に、「楽しく」は笑顔で接することを念頭に日々のケアを行なっている。理念のことは分科会でも取り上げ話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し公園清掃、敬老会等に参加したり、散歩の折の挨拶や事業所前での世間話を通し、地域との交流が保たれるよう努力している	散歩のときに近所の人と挨拶し、立ち話をしたり、みかんをもらったりして交流している。また、公園の掃除に参加したり、敬老会や夏祭りに参加して、年々当ホームが町内に認知されてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に外出し、事業所への理解を得るとともに、事業所への来訪を呼び掛けるなどして、相談等に対応する準備があるが、なかなか来訪まで結びついていかない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見、要望等については分科会等で取り上げ、職員間で共有し実施・実現に繋げている	年6回行われる運営推進会議は居間のテーブルを囲み、利用者も出席して行なわれている。出席者の薬剤師から病気の予防についてのアドバイスをもらい、分科会でも他の職員に伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者に事業所の現状を理解していただき、意見を聞いたり相談している	役所へは生活保護の申請や認定調査の申請などに行く機会が多い。その他イレギュラーのことはよく相談している。今は事業所の移転の件でよく出向いている。市主催の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で職員全体が知識を深め理解してもらっている。また分科会でも随時話し合い拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は施錠していない。出かける人には職員と一緒にについて出ている。スピーチロックについても、ダメとか待つてといった場合はきちんと理由を言うように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『知らずに虐待していた』ということがないよう会議や勉強会等を開き、また業務中も職員間で話し合いながら防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会をつくり、またその知識を勉強会等で職員が共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や本人の希望をよく聞き、事業所で行われるケアに納得してから契約を行う。改定等の際には説明会を開くとともに個別に説明、相談を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時間き入れる体制をとっている。出された意見、要望は分科会等で話し合い反映させている。又、内部の連絡先を重要事項説明書に明示、本人と家族にも説明を行っている	利用者が要望や意見を言える人が多く、遠足などのことでもどこへ行きたいか話し合っている。家族には来訪時や行事などで会う機会に、要望や意見を自由に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や分科会の際に、職員の声を聞く機会を設けている。また、日常的に提案がある時は話しを聞き、代表者に伝えて改善を図る等、反映されている。	職員から介護に関しての提案は日常的にあり、みんなで話し合い反映させている。職員からの要望は管理者から施設長に伝わり、必要なことは返事が戻ってくる。職員同士仲が良いことが利用者にも伝わり、穏やかに暮らしている様子が伺えた。外部の研修に参加した人は発表する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	真面目に勤務している職員は賞与などに結果が表れるなど、全体会議で運営者が発言している。また、個々の悩みや話しを聞き、前向きに仕事に取り組んでもらえるような対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	どのような研修があるかを公表することで、希望者が積極的に参加できる機会を確保し、そこで得た知識を分科会等で職員が共有することによりステップアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区別の意見交換会や事業所間同士の会合に積極的に参加し情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞くとともに、馴染むまでは特定のスタッフとの関わりを多くして、安心感に繋げている。また、言葉だけでなく表情・行動もよく観察し、本人の望む支援に繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちや要望をよく聴き、家族の立場に立って受け止めるとともに、それに対してどのようなケアを行っていけるかを提案、説明することで、相互理解を図り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時等に本人や家族の要望を聞き、それに添った支援ができるよう柔軟に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や炊事など一緒に家事や作業を行う折に、こつや生活の知恵を教えてもらうなど、お互いに頼り合う関係を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ならではの「心のケア」と施設の介護の両方で本人を支えていくことを話し合い、日々の訪問や行事の参加等を積極的に促しながら、共に本人を支援するよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て外出したり、他利用者と一緒に遠足として馴染みの場所に出掛けたりしている。また、電話や訪問などで、人との関係が続くよう努めている	知人と一緒に外出して、外食してくる人や家族に白寿のお祝いをしてもらった人など馴染みの人との関係継続の支援を図っている。また、新しい馴染みの場所として、近所のコンビニやあぐりん村などに行く機会も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々利用者同士の関係を把握し、お互いが快いコミュニケーションをとれるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所中から困った時に相談できる信頼関係を築くことに努め、退所後も気軽に相談できる雰囲気作りをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時等、1対1で話ができる環境を作り、本人の意向や思いを確認している	自己主張の弱い利用者もいるので、リビング等人の多い場所でなく入浴時や部屋で一緒に片付けをしながら1対1で話せる状況を作り出し、本人の要望・意向を確認し、添う様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	テレビ番組やニュース、歌等をきっかけに昔のことや個々の経験などを聞いている。また、家族にも訪問時に生活歴などの情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報やヒヤリハット等で情報を共有し、また口頭でも再確認する等、把握に努めている。本人の訴えにも耳を傾け、状態を観察することで変化を見逃さないようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望や意見を聞き、往診時に医師からも意見を得て、それをもとに本人にとって良い方向を探り、計画作成をするとともに、定期的に見直しを行っている	通常は3ヶ月に1回のモニタリングと6ヶ月ごとの介護計画作成となっている。日常的にこちらから利用者の様子を細かく伝えと共に家族から話を聞いたりしており、状態に変化があった時には協力医・家族同席で見直しが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日報を作成し、1日の様子・気付いた点、・介護計画に対する取り組み等を記入し、それを全職員が読むことで情報を共有し、ケアの実施に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の個々の状況に合わせ、買い物に対応したり外出するなど、柔軟に支援している。また、希望者には訪問マッサージを受ける用意もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方との世間話や近所の子供たちとの交流、また近くの保育園行事の参加等で楽しく、ハリのある生活が送れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度定期往診を受けられ、それ以外でも必要があればいつでも相談することができる。又、入居時からのかかりつけ医に通うことも可能で情報交換に努めている	2週間に1回協力医の往診があり、緊急で救急病院へ搬送となった場合も協力医との連絡が出来、看護師さんからの情報ももらえる等、連携は出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回健康状態のチェックを受け、気づいたことを伝えたり相談しアドバイスももらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より主治医と連携をとり、主治医を通して入院先と情報交換を行ったり、面会時に情報を得るなどしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で主治医を含めたサービス担当者会議で家族に説明を行い、本人・家族の意向を確認して方針を決めている。又、それを書面に残しチームで支える体制をとっている	重度化に対する指針があり、入居時に家族に説明がなされている。場面場面に応じて家族の意向を確認し、協力医を含め話し合、その指示の下方向性を職員に伝えると同時に情報を共有化して支援に当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応策マニュアルを全職員が手に取れる場所に備え、分科会等でも勉強する機会を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が自分で避難できるよう、定期的に避難訓練を行っている。また、地域の行事に積極的に参加し、事業所に理解を持ってもらい、災害時に協力し合えるような体制作りにも努めている	避難訓練は3月と9月の年2回、日中・夜間・地震・火災と色々な想定で行われている。利用者も参加し、日中の想定では利用者が車椅子の利用者を押して公園に避難する場面もあった。災害ネットワークに加入していて、3月11日の震災以降職員の意識が高まった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人のその時に合わせて対応し、自信を失わずに生活できるような支援を心掛けている。また、プライバシーに配慮した支援ができるよう分科会等で話し合い、介護に活かしている	居室に入る際には必ず声をかけノックしたり、トイレではアコーディオンカーテンを閉める等一人一人にさり気ない対応を心掛けている。職員は日頃から利用者に対して、尊敬の念を持って、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1対1で本人が思いを表しやすい環境を作り、話を聞くよう心掛けている。また、分かりやすい言葉で説明し、自己決定を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりが1日をどう過ごしているかを把握した上で、その日は何をしたいか希望に添った対応を努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用時には、本人の好みの髪型に整えてもらっている。また、日々の服装や化粧など本人らしいおしゃれができるよう選択を促したり、手助けをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に楽しみながらおかずを作り、配膳・片付け等を行っている。それぞれが得意なところで力を発揮し、和気あいあいとした時間となっている	献立は利用者の希望を聞き外部に委託した管理栄養士が立てている。行事等の都合により配食を取り入れたり、職員と一緒に利用者同士がごく自然に分担して下準備や味付け・配膳・片付けとそれぞれが出来ること・得意なことを楽しみながら行っている。又、外食の回転寿司は利用者の大きな楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は摂取表で把握し、水分量も必要に応じて記録をとり確保に努めている。その人のその時の状態に合わせた介助を行い、栄養確保とともに、自分で食べる楽しみを感じてもらえるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに積極的に取り組んでもらえるよう、声掛け・見守りを行い不十分なところを手助けし、清潔の保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンや合図を把握し、なるべくトイレで排泄できるよう声掛けや誘導を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握した上での支援に努めている。ポータブルトイレを使用している人もあり、個々に合わせた形で声かけ・誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの排便パターンを把握し、飲食物で工夫したり、体操や腹部を温めるなど予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日に入りたいか、何時頃が良いかなどの希望を聞き、出来る限りそれに添った支援を行っている	毎日入浴する利用者もあるが三日に一度位の入浴が多い。午前でも午後でも利用者の生活リズムに合わせた支援をしている。入浴を嫌がる場合には時間や日にちをずらして声をかける等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターンを把握し、良眠できるよう安心感を与えられるような声掛けに努めている。また、気持ち良く眠れるよう足浴など行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書類を職員がいつでも見ることができるようになっており、目を通して理解に努めている。また、薬が変わった時などは情報を共有し、状態変化の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動は1人ひとりが自分で役割を決め積極的に行っている。また、好きなレクリエーションや嗜好品が楽しめるよう好みを把握し支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って、散歩を楽しんだり公園で体操したりしている。又、買い物や花見など、家族の協力も得ながら出掛けられるよう努めている	毎朝近くの公園へ散歩に出かけ、帰ってコーヒーを飲むのが生活のリズムとなっている。コンビニへ出かけたり家族の協力を得てお祝いごとや喫茶店・買い物に行くケースもある。法人内で行われる運動会やかくし芸大会・お花見・紅葉狩り・花火大会見物等の年間行事もあり、お弁当を持って出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に、品物を選んだり支払いをしてもらうことで、買い物をする喜びを感じてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望に応じて対応している。遠くにいる親戚と電話での交流を楽しむ利用者が多い		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西向きの造りの為、西日が強く入らないよう、よしずやブラインドで調整している。また、散歩の折に取ってきた草花を生けたり、皆で作った壁面飾りを飾るなどし、和やかな空間作りを心掛けている	共用空間にはテーブルのすぐ側の窓際に広いソファがあり、昼食後利用者が座り新聞を読んだり休憩したりする光景が見られた。壁には折り紙や塗り絵・貼り絵・書道の作品が飾られ、家庭的で落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事兼リビングでテーブル席やソファなど、好きなところで話しをしたり、ひとりになりたい時は廊下のカウチで過ごすなど、思い思いに過ごせる居場所作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室で、使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、家庭的で個性が出ている。自分で塗った塗り絵など、作品や行事などの写真を飾って楽しんでいる	居室は和室となっており、孫の写真や本・テレビ・テーブル・衣装ケース等それぞれ整頓され置かれている。お気に入りの洋服がハンガーにかかっていたりして、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂・廊下の共用部分には手すりの設置はないが、かえってこれが身体機能の維持に役立っている。職員もできる事を励まし、見守るケアで自立した生活に繋げている		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371500352
事業所名	サポートハウス 藤ヶ丘

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 近くの公園へは毎日のように散歩に行き、途中で近所の人と会うと挨拶を交わし、話をしている。また、近くの保育園児とも散歩の途中で会うと一緒に仲良く散歩している。保育園の行事に行ったり、町内の行事に参加して交流を図っている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 2ヶ月ごとに年6回開催している。会議の中で出たアイデアなどは、取り入れて実践している。薬剤師からのアドバイスを分科会で同法人の職員にも伝えている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 生活保護の申請や認定調査の申請などで行く機会は多く、情報や助言をもらっている。また、4月に移転する件で相談をよくしている。市主催の研修には積極的に参加している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族が来訪した折には話しやすい雰囲気を作り、コミュニケーションを図るよう心がけており、信頼関係の構築に努めている。利用者の要望には家族の了承を得て、実現できるように努めている。また、月1回サポートハウス通信を発行し、家族に送付している。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価 ○ ○ ○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	—	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。